

豫言不當

地震例

にして、寒中雪ふること稀なり、また今年夏入初めより、巽にあたりて大なる星いづ、其光甚しく、人々怪み思へり、是ひきく見ゆる故なりしか、茲に十月二日は、ひねもす空曇り、小雨をばふり、巳中刻頃、また巽にあたりて、虹の如くその長十丈ほどなるすぐの氣たつ、山田某品川にて、夜は殊に寒くして空はれたり、其過日頃怪しき光りもの四方にひらめきたるやいなや、大地震に鳴動し、山川を覆へし、人屋を震倒す事、一時に數萬軒、其響恰も百千雷の落か、れる如し、略下

〔慶長日件録〕慶長九年七月二十一日、宿番ニ參内、今夜大地震、可催來之由、風說洛中洛外專なる間、京中町人不寢云々、内裏ニモ乍風說被驚、鷄鳴時分より、上格子也、少も不地震、一犬吹虛、萬犬吠ト可謂者也、二十二日、町人來云、夜前丑寅刻、可地震由、雜說故、世間騷動、以外也、云々、

〔日本書紀皇極二十四〕元年十月庚寅地震、而雨、辛卯地震、是夜地震而風、丙午、夜中地震、  
〔日本書紀天智十七〕三年、是春地震、

〔日本書紀天武二十九〕八年十月戊午地震、十一月庚寅地震、九年九月乙未地震、十年三月庚寅地震、六月壬戌地震、十月癸未地震、十一月丁酉地震、十一年正月癸丑地動、三月庚子地震、

七月戊申地震、八月戊寅亦地震、

〔續日本紀元五〕和銅五年六月乙巳地震、

〔續日本紀元七〕靈龜二年正月辛巳地震、

〔續日本紀元八〕養老三年三月乙卯地震、五年正月辛未地震、壬申亦震、二月甲申地震、

〔續日本紀聖十一〕天平四年七月丙辰地震、十二月辛卯地震、

〔續日本紀聖十二〕天平九年十月己未地震、

〔續日本紀聖十三〕天平十年九月辛丑地震、

〔續日本紀聖十四〕天平十四年三月己巳地震、十二月丁亥地震、